

VOICES from the ARCTIC

Vol.26 / 2023.6.8

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局

ArCS II
Arctic Challenge for Sustainability II



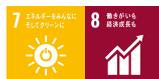
かつて興奮を呼んだ野心的な 海底油田プロジェクト”リバ ティ” 現在は宙ぶらりん状態



コノコ・フィリップスの巨大なウィロー・プロジェクトが話題となる以前、北極圏の新たな石油フロンティアを切り開くことを約束した、別のノース・スロープの石油プロジェクトがあった。リバティ油田は、推定1億5千万バレルの可採埋蔵量を誇り、連邦政府が管理する外大陸棚外縁部、氷に覆われたボーフォート海に位置する最初の生産油田となるはずだった。そして現在、宙ぶらりんの状態となっている。ウィローがもたらす収入や雇用に州当局が大きな期待を寄せる中、リバティの歴史は石油開発プロジェクトの不確実性を警告するものとなっている。

記事参照：Liberty, an ambitious offshore oil project that once sparked excitement, is now in limbo - ArcticToday
(2023.4.11/Arctic Today)

控訴裁判所が差し止め請求を 却下、コノコ・フィリップス のウィロー作業続行を認める



アラスカのノース・スロープにあるコノコ・フィリップスの巨大プロジェクト「ウィロー」のために計画されていた砂利道の建設は、連邦控訴裁判所がその作業を阻止する仮処分の申し立てを却下したことで、続行が認められることとなった。この控訴審判決は、バイデン政権が3月13日に承認したウィロー・プロジェクトに異議を唱える2つの訴訟で下されたもの。このプロジェクトは、ここ数十年で最大のアラスカ石油開発となることが約束されており、ノース・スロープの最西端の生産油田となる予定。

記事参照：Appeals court denies injunction request, allowing ConocoPhillips to proceed with Willow work - ArcticToday
(2023.4.21/Arctic Today)

シャチの脂肪分析で、何を食べているのかが明らかに



シャチが海の頂点に立つ捕食者であることは知られているが、シャチの食事、特に各生物種の摂取量についての理解はまだ十分ではない。しかし、シャチの皮膚と脂肪のサンプルだけで、正確な食生活を明らかにする技術が開発された。シャチの脂肪中の脂質組成を測定し、コンピュータプログラムを使って、個体の食事に占める各餌生物の割合が最も高いものを再現するもの。このアプローチにより、捕食者たちの食生活の将来的な変化を測定し、北極圏の食物網にどのような影響を与えるかを理解することができる。

記事参照：Analyzing the fat of killer whales reveals what they eat - ArcticToday
(2023.4.18/Arctic Today)



A pod of killer whales is seen in Alaska waters in an undated photo.
(NOAA)

1～3月の海港貨物取扱量、前年同期比10%増、北極海航路開発を進める方針堅持

ロシア商業海港協会の発表（4月12日）によると、2023年1～3月のロシア海港での貨物取扱量は前年同期比10.0%増の2億2,020万トンだった。ロシア政府は北極海航路の整備を「ロシア経済における重要戦略」として注力していく方針を堅持している。

記事参照：1～3月の海港貨物取扱量、前年同期比10%増、北極海航路開発を進める方針堅持(ロシア)| ビジネス短信 ―ジェットロの海外ニュース- ジェトロ (jetro.go.jp)
(2023.4.19/JETRO)

北極海ケーブル事業におけるケーブルルート調査を開始



～北米を經由し欧州とアジアを結ぶ初の北極海ケーブルシステムの構築を目指す北極海ケーブル事業は、ケーブルルート調査を開始し、大きな一歩を踏み出す～

アルテリア・ネットワークス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長CEO：株本幸二）が出資するFar North Fiber Inc.（以下、FNF）において、推進する北極海ケーブル事業（Far North Fiber事業、以下：FNF事業）がケーブルルート調査を開始した。

記事参照：北極海ケーブル事業におけるケーブルルート調査を開始：時事ドットコム (jiji.com) (2023.4.11/時事ドットコム)

バイデン政権、アラスカからのLNG輸出プロジェクトにゴーサイン



米国が北極圏からアジアへ天然ガスを輸送するためにロシアと競争する中、バイデン政権は、木曜日にアラスカLNGプロジェクトからの液化天然ガスの輸出を承認したことが明らかになった。エネルギー省は、米国が自由貿易協定を結んでいない国々にLNGを輸出するAlaska Gasline Development Corpのプロジェクトを承認した。約390億ドルのこのプロジェクトの支持者は、必要なすべての許可を得れば、2030年までに稼働すると予想している。LNGは主にアジアの国々に輸出される予定。

記事参照：Biden admin greenlights LNG exports from Alaska project - ArcticToday (2023.4.14/Arctic Today)



A model of an LNG tanker is seen in front of the U.S. flag in this illustration taken May 19, 2022. (Dado Ruvic / Illustration / File Photo)

ドイツ大統領、北極圏を含む4日間の日程でカナダを訪問



ドイツのフランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー大統領は日曜日、大企業の視察団を伴い、4日間のカナダ訪問を開始した。永久凍土の融解など、気候変動がすでに目に見える形でもたらしている影響について学ぶため、カナダの極北を訪問する。

記事参照：German president in Canada for four-day visit including Arctic trip - ArcticToday (2023.4.24/Arctic Today)

ガスの安定供給への懸念からノルウェーが北極圏バレンツ海ガスパイプライン再考



北極圏バレンツ海で生産されるガスを輸送するためのパイプラインの建設は、供給安全保障への関心の高まりとノルウェーが欧州へのガス輸出を増やしていることから、再検討の価値があるとガスインフラ事業者のGasscoが発表した。ロシアからの供給が減少し、ノルウェーはヨーロッパ最大のガス供給国となっている。

記事参照：Security of supply concerns prompt Arctic Barents Sea gas pipeline rethink in Norway - ArcticToday (2023.4.17/Arctic Today)

気候変動で世界最北の研究拠点が雪に覆われる



世界最北の常設研究施設では、地球上で最も急速に温暖化した場所がどのように変化しているのか、そしてその変化が地球の未来に何を意味するのかを理解しようと、科学者たちが奮闘している。しかし、ノルウェーのスヴァールバル諸島に位置する北極圏上部の小さな町、Ny-Ålesund周辺では、科学データへのアクセスが困難になっている。そして、科学者がデータを収集する前に消えてしまうこともある。氷床を採取しようとする科学者たちは、氷河が水に浸食されていることを発見している。また、春先の雪解けが進み、スノーモービルで移動するには地面が荒れすぎて調査地点へのアクセスも難しくなっている。

記事参照：Climate change thaws world's northernmost research station - ArcticToday (2023.4.19/Arctic Today)



NPI (Norwegian Polar Institute) scientists ride their snowmobiles as the sun sets at the banks of Kongsfjord and the Kronebreen glacier near Ny-Ålesund, Svalbard, Norway on April 10, 2023. Researchers have been studying the polar region for decades, with Ny-Ålesund's weather records going back more than 40 years, but as Svalbard temperatures climb up to seven times faster than the global average, scientists' work has become vitally important because what happens in the Arctic can impact global sea levels, storms in North America and Europe, and other factors far beyond the region. (Lisi Niesner / Reuters)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標 (SDGs)』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.26は、2023年4月後半のニュースを掲載しています。

ロシアによるウクライナ侵攻開始から1年が経過し、ロシアからのエネルギー・シフトの流れが加速し、アラスカ、ノルウェー北部での資源開発が熱を帯びつつあります。資源開発が進む一方、環境影響への懸念も環境団体から指摘されていますが、資源開発を地元住民が支持して進めている自治体もあり、開発と環境保護の問題が改めて問われる状況が生じています。(文責：大西)

発行元：ArcS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監修：大西富士夫 (北海道大学北極域研究センター)
 E-mail: tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト: <https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

